

LPO

レッスン プラス ワン

Nov, 1999

8

LPO編集室：〒174-0063 東京都板橋区前野町3-43-7 楽譜専門部 ㈱松沢書店内 TEL：03-5970-5917

バスティンメツソード導入シリーズ

『ピアノパーティー』

一人でも多くの音楽好きを育てたい、との想いでピアノ指導を始めて35年が過ぎた今、基礎をしつかり伝えることのできる教本は何か？ 数ある教本の中でも、私の中で生き残ったもの、それがバスティンメツソード（東音企画）でした。そのうちの「ベーシッククス・シリーズ」に先立つコースである「ピアノパーティーシリーズ」は、基礎の基礎から徹底してかみくだいて音楽を学ぶのに必要な要素を与えてくれる導入期の教本です。

♪「ピアノパーティー」の特色

このバスティンメツソードは「総合音楽教育」（弾く、聴く、創る、理論）を骨子としており、いわゆる「弾くこと」だけに偏っていません。また、全調メツソードなので、導入期から調性感、調性による色彩感を学ぶことができるのが最大の魅力です。

ポイントには「読譜」に至るまでの学習が実に整理されていて、自然に確実な力がつくように構成されている点です。生徒の年齢やレベルに合わせて、いろいろな教材の組み合わせをすることができ、ピアノパーティーA・Bの2冊を経てから、初めてCで読譜に進みます。したがって「パーティー」を使った場合が、バスティンによる導入の中で最もかみくだいた読譜へのアプローチを実践できるのです。

♪「ピアノパーティー」使用上のポイント

ピアノパーティーシリーズは、「ピアノパーティーA～D」「聴音と楽典パーティーA～D」「パフォーマンスパーティーA～D」の3種類に分かれています。

「ピアノパーティー」… 主教材で、他の2冊とセットで進めていきます。

「聴音と楽典パーティー」… 書いたり聴いたり弾いたりしながらより確かに身につけさせます。

「パフォーマンスパーティー」… 補助教材の曲集で、ピアノパーティーと同程度のテクニクの練習曲が盛り込まれています。

これら3教材がA～Dレベルの4段階に分かれています。

ふじわら あつこ
藤原 亜津子



A：指番号のみのフレードインク（五線譜なしの方向読み）「あがる」「さがる」「おなじ」を確認していく。

B：音名の入ったフレードインクで弾き、移調の学習も始まる。

C：五線譜の読譜に入る。拍子、休符、表現する基礎などを学ぶ。

D：全12調、5指ホジションの曲を読譜し、弾く。

♪「こ」が楽しい！ 「ピアノパーティー」

カラフルな絵が楽しい。絵を見ながら、先生も生徒もそこからイメージを広げることができ、会話も弾む。イメージを持ち、それを音に変えることへの導入がスムーズ。

表現するために大切な手首の柔軟な動きも最初の入口から取り入れられていて、生徒は自然に奏法を学んでいる点「フーモーション」と呼んでいます。

・音程読譜を進めていけること、表現力を重視していること。などなど……

現代の子どもたちは、かつてよりも早い時期に、塾や部活へと忙しくなるようです。ですから忙しくなる前に、しつかり読譜力をつけて、表現の基礎を短い期間で学ばせてあげて、音楽的に「自立」させてしまえばいいのです。基礎がしつかりついていれば、中級で挫折しないのです。指導者にとつて教える内容が実に順序良く整理され、教えそびれる心配もしなくてすむところも、とてもありがたいですね。私はピアノを教え始めた頃から、「基礎とは何か？」というのを常に問い続けてきました。繰り返しますが、それを支えてくれる教材として、最終的に生き残ったのが、この「ピアノパーティー」シリーズをはじめとするバスティンメツソードだったので。

茨城県竜ヶ崎市中で藤原音楽スタジオを主宰。全日本ピアノ指導者協会正会員（竜ヶ崎支部事務局長）。コンペティション審査員。ヤマハセミナー講師。小学校音楽専科教諭・高等学校音楽科講師を経て、現在聖徳学園短期大学付属高等学校ピアノ科非常勤講師を務める。バスティン・ピアノベーシックス・シリーズを足掛りとし、独自で作成した補助教材やピアノフレッシュヤーンを駆使した指導により、ベティナ・ピアノコンペティション・指導者賞を一九八七年より10回受賞。

『伴奏』は音楽のパートナーシップ

いわさき しゅく
岩崎 淑

ピアノを弾く楽しみは、ソロで弾くだけではなく、他人と合わせることにもあるはず。そして、ピアノの先生・生徒とも、学芸会やピアノの発表会などで伴奏をする機会が数多くあることも事実です。しかし、普段のピアノレッスンでは、やはりソロとしてのレッスンがメインで、「伴奏」については教えることはなかなかないのが現状ではないでしょうか。

今回のテーマは「伴奏」について。今春、春秋社より『アンサンブルのよさこび』を出版され、現在、日本における伴奏ピアノニストの第一人者として国内外で活躍される一方、桐朋学園大学院大学をはじめとする音楽大学で教授として指導にあたっているらっしゃる岩崎淑先生にお聞きしました。

●「伴奏ピアノニスト」とは？

Q 先生は日本では珍しい「伴奏ピアノニスト」として活躍されていますが、まずその「伴奏ピアノニスト」についてお聞かせ頂けますか。

A 「伴奏ピアノニスト」とは演奏そのものも普通のソリストとは違うのですが、顕著な違いとしてその「人柄」が挙げられます。伴奏というのは相手（ソリスト）がいて成り立つものですから、個性は個性として持ちながら人と融合できる性格であることが第一です。自分を表わすことだけを考えている人、自己主張がすごく強い人は、まず性格的に言って伴奏家として成り立たないと思います。人と妥協できたり、人のことを一緒に考えてあげられること。家庭で言えば、ご主人を立てるみたい

にいいサポート役になれる人柄が求められます。

伴奏家として有名なイギリスのジェラルド・ムーア、ドイツのヘルムート・ドイチュなどは、それぞれの国でその職業を確立しています。また、日本ではまだですが、最近では世界の音大に「伴奏科」があります。それが伴奏家を育てるのに大変役に立っています。

ジュリアードの伴奏科で主眼としているところは声楽、一方パリ音楽院では弦・管と、学校によつて様々ですが、いずれも大変なトレーニングをさせられるらしいです。というのは、声楽の伴奏家は声楽家をトレーニンングできる資格というか、それくらい権威があるのです。まずドイツ語、フランス語、イタリア語について、歌詞がわかるように勉強しなくてははいけません。また、

●プロフィール

桐朋学園短期大学音楽科卒業。米ハートフォード大学音楽学部卒業。ジュリアード音楽院修了。67年3月〜国際フワール 重奏部第二位。70年ヤコフスキー国際フワール伴奏特別賞をはじめ多数のフワールに入賞。現在、桐朋学園大学院大学をはじめ国内外伴奏指導にあたり。また多数のフワール重奏を歴任。76年よりコンサートシリーズ「ミュージック・イン・スタイル」主宰。97年より沖縄国際音楽祭音楽監督。99年4月、春秋社より『アンサンブルのよさこび』を出版。



シリース「ミュージック・イン・スタイル」主宰。97年より沖縄国際音楽祭音楽監督。99年4月、春秋社より『アンサンブルのよさこび』を出版。

ピアノスコアだけでなく、オーケストラ・スコアで弾かされたり、指揮をちよつとやらされたりもします。伴奏は音楽の総合的ないわゆる土台の部分をやっているわけですから、ある時は生徒に「あなたが指揮者になったつもりでパートとリードしないと」とつて言うんです。実際、曲には前奏があるから伴奏者はテンポ、音色などリードすることがとても多くあります。またやわらかさ、ニュアンスも最初に伴奏者が音楽的にきれいに弾いてくれるとソリストもすこノリやすいですよ。ところが、伴奏者がきつい音で変なテンポで弾き始めたら、もうソリストはそういう風に弾かざるを得ないし、上手な伴奏者じゃないと絶対にノッてくれません。そういう意味では、前奏の部分の聞いただけで、その演奏会がい

いかどうか分かってしまうんです。ソリストを聴かなくても（笑）。
Q なるほど、伴奏者というのは裏方ではあるけれども、実はソリストの手綱を握っているんですね（笑）。

●「タッチ」で音楽を彩る

Q それでは、伴奏する上で特に気を付けるべきことは、どのようなことがあるのでしょうか？

A 楽譜に書かれているテンポなど、音楽の約束事を守ることは大前提ですが、何と言つても大切なのは「タッチ」です。相手の楽器と溶け合うような、ピアノならではの音、また、二人のホールが一番後ろの聴衆にピアノニストでもちゃんと響いて届く音……。これらの音はタッチによつて決まります。指を立てて弾くか、指先のどの部分で弾くか、手首をどのくらい動かすのか……。時としてピアノは「弾く」と大さすぎる場合があります。弾かないで「触れて」いるだけということも伴奏にはあらゆるパッセージに存在するんです。

また、ペダルについて。ペダルもともすれば踏み過ぎの人が非常に多いです。ペダルは音を響かせ、弾いた後の響きを楽しむもの。元来レガートはペダルでするものではなく、指でするものです。それをペダルでしようとしてずつと踏んでしまうと、それはすこ汚い音になってしまいます。ペダル無

しでどれだけレガートができるか。伴奏では半ペダル、ちよつと触れるだけのペダルなんかも使います。それらを使いこなすには、やはり「良い耳」を育てること。そのためには良く調律されたきれいな音の出るピアノでタッチによる音の違いを感じしなくては。

究極的には、作曲家によっても音は違います。シューベルトとバッハの音は違つし、シヨパンとベートーヴェンの音は違つはず。それをタッチやペダルで変えていくのがいいピアノリストです。曲によつて音楽性はちろん、場面場面での作曲家に沿つたりリズム、タッチがバッパと変われば、演奏会はずごく楽しくなります。でも、それが本当にできるようになるには、やつぱり十年二十年かかるでしょうね。でも、最初にそういうことを気にしているのといないのではやはり大きく違つてきます。

Q テンポや強弱だけでなく、相手の楽器と溶け合う音色、タッチ、レガートのことまで考えて弾くというのは驚きですね。

A それはむしろ、ソロ・伴奏者にかかわらずピアノリストとしての要素、ピアノの技術の基本なんです。私は伴奏法の最初の授業でもこう言っています。「ピアノの技術を学ぶことを前提にしないとけない。ピアノストじゃないと伴奏家にはなれないわよ」って。例えば、私にはテクニクがないからとか、あまり勉強していないから第二の選択として伴奏を選ぶ人がいますが、

ソロと伴奏、というのは対等で、専門家はトータルな音楽家—— 伴奏もできるしソロもできるし、室内楽もできるという人を目指して勉強するべきだと思ひます。専門職だけれども全体を見渡せてなくては。けれども、まだ日本の音大には「伴奏科」がありませんし、職業としても成り立っていないのが現状です。いわゆる専門家を育てるための伴奏コースが日本の音大にカリキュラムとして確立されれば、伴奏家の道に進む人も増えるかもしれません。だからせめて、ということでも桐朋には「伴奏法講座」が誕生したんです。その講座で伴奏の面白さに目覚めた人はたくさんいます。

私、「伴奏」という訳が良くないと思うんですが(笑)。順応性は不可欠なものだけど、決してソリストに從属するのではなく、パートナーシップを伴つた『共演』ですよ。

トータルな音楽家の育成

Q では最後に、ピアノの先生へのメッセージをお願いします。

A. あくまで、どんなことがあつても基本をちゃんと教えてほしいと思ひます。指の形、姿勢から始めて、小さい時からちゃんとやることです。小さいからできないということはありません。先生が最初からいい形でちゃんと教えれば、それはずっと続いていくんです。そしてそれと同時に、練習の嫌いな子への対策、練習することの楽しさ、

大切さを教えることだと思ひます。例えば同程度の生徒との連弾とか、他の楽器の小さな子とアンサンブルをやらせてみるとか…… そういう場を持つことで、練習への動機づけにもなると思ひますし、小さい時から音楽をよりトータルに勉強できると思ひます。

また、生徒をトータルな音楽家に育てるためには、もつと総合的な教養の中にピアノを位置付けるべきだと思ひます。例えば、欧米の先生は音楽史、音楽学、作曲法など、曲にまつわることをすべて分かつていてピアノを教えたらつしやいます。

日本の先生も、音楽史などもう一度勉強して、例えばモーツアルトが生まれたオーストリアはこういう国で、こういう生活環境で育つて、だからモーツアルトはこんなキレイな曲を作つたのよ、つていうことを教えてほしい。というのも、こんなことがあつたんです。ある外国でのオーディションの時、日本人の方がバッパを弾いたんだけど、その時の審査員はそのバッパについてコメントするのではなく『君はドイツの事をどれくらい知つているかな』と聞かれたんです。ドイツという国、ドイツについて……。それはまさに、私たちがバッパを弾く時、ドイツ人の氣質を知らないで弾けないよ、ということなんです。

やはりピアノはヨーロッパのものだからヨーロッパのことは知らなくてはいけません。それをただ指が回る訓練だけでも絶対に育つてはいきません。

いつまでたつてもその演奏から薫ってくるものが生まれません。そういう雰囲気薫ってくるには、やはりイマジネーションをたくさん生み出せるような環境の中で、生徒の感受性を高めていくことが大切なんです。

Q もうそうなつてくると、それはピアノ教育を超えた「創造教育」ですね。それは、もし万二ピアノをやめてもずっと残るでしょうね。

A. ええ、もし私が演奏家としてピアノを弾かなくなつたらそういうことをやりたいわ。子どもたちきつと目を輝かすわよ。今やビデオがあるから、見せたい映像だつてすぐ見せることができるし。

一点集中して学ばせることもピアノのレッスンの過程では必要ですが、まず音楽を総合的に学ばせることが何より大事だと思ひます。それには、先生もテクニクだけじゃないものを勉強していかなくては。

(三七)

先生の著書 好評発売中！

『アンサンブルのよさこび』

テレビから30年日本の室内楽のハイオアとして、演奏活動だけにとまらず、教育に「サートン」コースとハワフルな活動を展開されている先生の様々な想いが綴られたエッセイ。今年四月出版されて以来、各万頭話の冊



岩崎 淑 著
春秋社 刊
本体定価 1800円

11月の新刊&おすすめ本

ピアノでクリスマス!

クリスマス新刊楽譜のご紹介

その他、店頭にてクリスマス楽譜を数多く展示しています。ご来店のうえお選び下さい!

●サンタクロースの贈り物

— クリスマスにまつわるお話と楽譜 —
クリスマスにまつわるさまざまな逸話や欧米でのクリスマスの過ごし方をご紹介。また、それらのお話にリンクして、簡単なピアノ伴奏譜もついています。(全音 2500円 発売中)

●ホワイト・ジャズ・クリスマス

中級者レベルで弾けるクリスマス・ジャズ・アレンジ。その他、楽譜で取り上げた曲のおすすめCDの紹介、ショート・ストーリーつき。
(ドレミ 1500円 発売中)

●クリスマスへのたのしみ

弾いて歌って聴いて
(オーケストラ伴奏CD付)
英語詞・日本語詞・ヴォーカル譜つき。さらにオーケストラ伴奏CDも付いています!
クリスマスパーティーなどにオススメ!!
(全音 2200円 発売中)

●Xmasに流れるピアノ[カポル]メロディ

おなじみのクリスマスソングがオルゴールから流れてくるような、シンプルだけれどもここに響くアレンジで登場です。
模範演奏CDつき。(ドレミ 2500円 発売中)

●みんなが楽しく手れんだん@クリスマス

"譜めくりのしらない"シリーズ。
パーティーにぜひ!!
(ヤマハミュージックメディア 1600円 発売中)

●クリスマスソング大全集

全56曲歌詞つき! 全てのジャンルをカバー。
(ヤマハミュージックメディア 2800円 発売中)
月刊Piano'99.12月号増刊

●ピアノでクリスマス

クリスマス周辺情報も満載!!
(ヤマハミュージックメディア 933円 発売中)

最新ヒット曲

- 宇多田ヒカル「Addicted To You」
ソニー「Red Hot」CMソング。
(全音kmpジョイン 各500円、ヤマハ 660円 11/上)
- Kinki Kids「ヒット・コレクション」
「雨のMelody/to Heart」までのベスト曲集。
(ジョイン 1600円 11/上)
- ゆず「ゆずえん」(ピアノ弾き語り)
待望第2弾!! (ヤマハ 1500円 11/下)

アニメ・ゲームミュージック

- 聖剣伝説レジェンド・オブ・マナ
プレイステーション新発売のゲーム音楽!
(ドレミ 1600円 11/下)
- 名探偵コナン・ピアノ・ソロ・コレクション
(ドレミ 1500円 11/下)
- ルパン三世・ピアノ・ソロ・コレクション
(ドレミ 1400円 11/下)
- スタジオジブリ・アニメ名曲集
(ドレミ 1500円 11/下)
- カードキャプターさくら ピアノ・ソロ
(ヤマハミュージックメディア 520円 11/中)

その他

- レスナー手帳 2000年度版
毎年ご好評をいただいています「レスナー手帳」が発売になります。
(ドレミ 1000円 11/中)

ビデオ

- 「ピアノ魔法」、ビデオになる!
春秋社「ピアノ魔法」-井上直幸著-がビデオになって登場! 来春3月発売予定!!
井上氏本人が出演しており、上下巻各8000円の予定です。ご予約をお待ちしています。

教本・曲集

- 田丸版 こどものバイエル 第4巻
全6巻のうち4巻目の発売。
(学研 1000円 発売中)
- グリーグ ピアノ曲集=ペータース版=日本版
・第1巻 叙情小曲集
全10巻 66曲を収載。グリーグのライフワークとなった作品群です。
・第2巻 ソナタ・バラード・ペールギュント
なんといってもグリーグといえば「ペールギュント」。「山」といえば「川」みたいなもの! えっ、違う?
(ヤマハ ①-2500円、②-2200円 11/中)
- Miyoshi ピアノ・ソナード併用曲集 Vol.1
テキスト第1、2巻の併用曲として三善 晃先生が作曲された曲集。
(カワイ 1500円 11/下)

音楽書籍

- どこか古典派(クラシック) 中村絃子 著
10月のサントリーホールでのピアノ・リサイタルもアツという間の子ケツ完売。相変わらずの人気ピアニスト、中村絃子さんの最新エッセイ集。
(中央公論新社 1300円 好評発売中)
- ブレインベンション 指導の手引き
日下部憲夫 著
全音「ブレインベンション」の指導のポイントを解説。
(全音 1100円 11/中)

音楽雑誌

- Gramophone Japan -グラモフォン ジャパン-
11月24日創刊! (毎月24日発売)
クラシックCDのガイドマガジン! 創刊号の特集は「内田光子スペシャルインタビュー」
(新朝社 1000円 11/24)

※これらの価格は本体価格です。
お支払いの際は、別途消費税が必要となります。